

生き物の春と夏の違い・セミの抜け殻で環境調査

生き物の春と夏の違い

春と同じ生物で連続して観察を続け、記録を整理することから、季節による生物の活動や成長を比べることができます。春と夏の記録ができたところで比較することで、違いがはっきりするとともに、そのわけを気温と関連づけてとらえることができるようになります。

生き物	ヒヨドリ	ツバメ	テントウムシ	カマキリ	カエル	ヒョウタン
春のようす	花を食べたり鳴き合ったりする。	南の国から渡ってきて、巣をつくる。	成虫がアブラムシを食べている。	卵から幼虫が生まれる。	池や小川に卵を産む。	たねをまいて芽が出てきた。
夏のようす	巣をつくって子育てをする。	子育てをしてえさを集めている。	卵から幼虫になり、幼虫もアブラムシを食べる。	大きくなり、ほかの昆虫を食べる。	おたまじゃくしがカエルになる。	どんどん成長し、花が咲いて実もできてきた。

セミの抜け殻で環境調査

セミの抜け殻は、その場所でセミの幼虫が成長し、羽化した証拠です。抜け殻はセミの種類によって異なり、周辺の環境によって生息するセミの種類が異なるので、セミの抜け殻を通して、自分たちが住んでいる地域の環境を調べることができます。

セミの抜け殻をできるだけたくさん集め、次のような地域の自然度を調べてみましょう。なお、自然度とは、環境アセスメントに使われる用語で、人為による影響や復元力の強弱の度合いなどに応じて自然を評価する指標のことです。

セミの抜け殻を利用した自然度の指標

自然度0	クマゼミ、アブラゼミの成虫のみ生息。抜け殻はまったく見られない。
自然度1	クマゼミ、アブラゼミの抜け殻が見つかる。
自然度2	ニイニゼミの抜け殻が見つかる。
自然度3	ツクツクボウシの抜け殻が見つかる。
自然度4	ミンミンゼミ、ヒグラシなど山地性のセミの抜け殻が見つかる。



